



南雲和夫

「百年に一度の暴風雨」とも言われる世界経済危機の中、スキー客の減少に歯止めがかからず、町経済の低迷と財政の縮小が懸念される当町ではありますが、住民の安心、安全を確保し福祉の向上を図ることは自治体の使命であります。机上で効率を追求し議論しているだけでは住民の暮らしが置き去りにされ、住民目線に立ったビジョンが伝わってこない。独自のまちづくりを選択した町として未来へ軸足を置いた具体的な施策が望まれています。

町内担当者制度導入を急げ

質問

平成20年3月、9月議会に関連質問をしていますが、

自治の原点を見据え、地域へ積極的に加わることは時代の要請といえる。職員の政策能力と住民との調整能力向上の観点からも、明日の姿を共に模索していく「気概と努力」が重要である。その努力を重ねる姿こそが住民の「安心と信頼」を生み、自らの働きやすい環境を生みだすものと考ええる。

町長答弁

町内の集会等で要望や特定のテーマがある場合には、担当部署の専門職員を配置し対応をしていきたいので話をいただきたい。地域住民のニーズを的確に把握するには必要と考えており、すぐとはいかないが課長会議や職員組合の皆さんからも意見を聞き、前向きな姿勢で取り組めるよう努めていきたい。

生ゴミのリサイクル事業(堆肥化)を

質問

要旨は前回と同じであるが、バイオマスタウン構想の実現にはコスト、収支計算等が重要な要素となることから、構想の変更も視野に入れ、実情に即した計画の取り扱が必要である。生ゴミ減量化に早期の具体的な取り組みが必要であり、部内検討会の現況と併せ考えを伺う。

町長答弁

具体的な事業化計画等で、変更の必要が生じた際には構想の見直しもあるが、当面はデイスポージャーの一般家庭を対象にした導入準備と、業務用生ゴミの循環型リサイクルシステムの検討を先行したい。新年度には東京の大手ホテルの視察研修を実施したい。

産業観光課長答弁

幹事会を2回開き、関係課での課題について整理検討をしている。

国から町が補助を受けて事業者に交付することから、最終的な責任は町が持たなければならぬ。きちっとした実施計画を相互で打ち合わせ進めたい。

南魚沼市では、木質ペレット製造に3500万円を予算計上し、民間企業に支払われることとなっていると聞いています。

「童画のまちづくり検討委員会」委員の位置付けの明確化を

質問

常任委員会で「町民に愛される童画作品になるための検討」に委員会を設置し、9名の方々の協力と川上氏、豊口先生をオブザーバーとして参加をいただけたとの報告を受け期待をしているところです。「越後湯沢全国童画展」13年の歴史は、住民ボランティアで実行委員会が組織され、それを行

政が支える運営方法に注目が集まりマスコミ等で話題となった。しかし、10回目からは逆に住民が運営委員として組み込まれ事業に係わってきた経緯がある。要件を整備し委嘱すべきと考えるが、委嘱としなかった理由と検討後の展望を伺う。

教育長職務代理答弁

委員の皆様にはボランティアという形でお願いをし、了解をいただいております。町全体が美術館的な考えも視野にいれてはという意見もあり、活用方法等を中心に検討をいただく中から、検討の段階で実施可能なものについては実行していきたい。

副町長答弁

決まりきった委嘱状を出すことが逆に失礼とならないか、この事業が将来に繋げるにはどちらがいいのか見守っていききたい。委員の皆様が手弁当で協力をしていたらいいことに、私共も感謝しなければならぬと感じております。

住民目線に立ったビジョンを

一般

質問

質問